

平成 25 年度上下流交流事業

木曾三川流域自治体サミット

- 【日 時】 平成 25 年 10 月 16 日（水）～17 日（木）
【場 所】 木曾町日義 木曾文化公園、木曾駒高原ホテル並びに木祖村内
【内 容】 以下のとおり

平成 22 年に名古屋市で開催された「COP10（生物多様性条約第 10 回締約国会議）」を機に、木曾三川（木曾川、長良川、揖斐川）流域の自治体が一堂に会し、森・川・海の水でつながる命をテーマに同年 10 月に「流域自治体宣言」を行い、これに賛同する 43 自治体が参加して交流や連携を深める活動を行っているもので、第 3 回目となる今年は、木曾広域連合が主体となって企画運営にあたり、木曾町の木曾文化公園で開催されました。

今回のサミットは、従来の加盟自治体に加え「第 2 の木曾川」と呼ばれる愛知用水流域の自治体にも参加を呼び掛けたことや、企業や民間団体をはじめとした一般の方々にも講演会や首長の意見交換会を聴いていただけるようにしたことが大きな特徴となっています。

当日は大型台風が日本の南部を通過したことから開催が危ぶまれましたが、加盟自治体を中心に 18 市町村の首長が参加したほか、流域各地から 600 名を超える方にご参加いただきました。

第 1 部は、基調講演として NPO 法人森は海の恋人理事長の畠山重篤氏により「森は海の恋人 人の心に木を植える」と題して、豊かな森林が生み出す養分が海の生物を育てていることを解説しながら、森林整備と環境保護の重要性についてお話しいただきました。

講演の後、木曾川流域における事例発表として、愛知中部水道企業団と「木曾川流域連携 みんなの会」から上下流交流の取り組みについてスライドを交えて発表していただきました。

休憩をはさんで 18 市町村の首長による意見交換会となり、それぞれの自治体の PR を交えながら、上下流交流や環境保護の方策等について活発な意見交換が行われました。

最後に開催地の木曾地域 6 町村長より、災害時の相互支援や水源地保全、経済交流等、上流域と下流域との連携について 5 つの方策を「木曾からの提言」として発信しました。

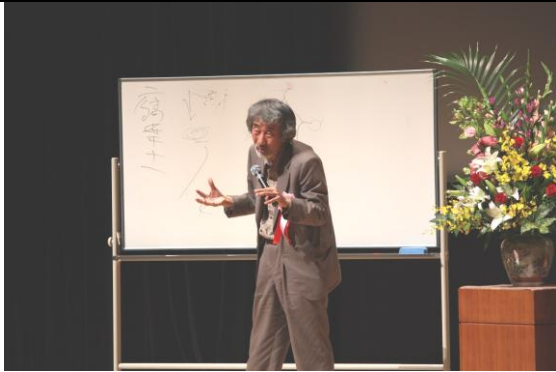
第 2 部は木曾駒高原ホテルに会場を移して交流会が開催されました。

2 日目は「木曾川源流域を巡る散策」として、約 40 名の参加により、木曾川最上流部である木祖村の各地を巡りました。水木沢天然林を歩いたり、中京圏の水瓶のひとつでもある味噌川ダムを見学したりしながら、木曾地域の豊かな自然を体感していただきました。

本イベントの実施にあたり、地域間交流事業の一環として木曾川流域の環境保全を啓発する目的でノベルティ（携帯ストラップ）を製作し、参加者へ配布しました。

※この事業は、長野県の「地域発 元気づくり支援金」を活用して実施しました。

☆ 当日の様子



基調講演（畠山重篤氏）



事例発表（愛知中部水道企業団）



意見交換会



木曾からの提言



交流会（木曾の木遣り唄）



散策（水木沢天然林）



散策（味噌川ダムの説明）



ノベルティ（携帯ストラップ）

※この事業は、長野県の「地域発 元気づくり支援金」を活用して実施しました。